

## 社会科シラバス（第3学年）

● 指導の方針

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得をめざして

- ・授業プリントを活用し、基礎学力の定着を目指します。
- ・毎時間の授業の導入に前時の復習（反復学習）を実施します。

○思考力・判断力・表現力その他の能力の育成をめざして

- ・「単元を貫く課題」を設定し、計画的に生徒が主体となる活動を設けます。
- ・2～4人のグループ活動を取り入れ、話し合いを行います。

○学習意欲の向上や学習習慣の確立をめざして

- ・問題集やノートを定期的に評価し、学習習慣の定着を図ります。
- ・デジタル教科書を使用し、関心意欲や資料活用能力の向上を図ります。
- ・埼玉県や上尾市の身近な地域の資料や課題を積極的に活用します。

● 評価の観点と評価規準 ※各観点の達成状況 A85%以上 B50%以上 C50%未満

評価の観点	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
評価規準	社会的事象に対する関心を高めそれを主体的に追究し、広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚を持って責任を果たそうとしている。	社会的事象から課題を見だし社会的事象の意義や役割、相互の関連を多面的・多角的に考察し、様々な考え方を踏まえ公正に判断し、適切に表現している。	統計や新聞、映像など社会的事象に関する資料を収集し、情報を適切に選択して読み取ったり図表にまとめたりしている。現代社会の見方や考え方の基礎、社会生活及び政治や経済の基本的な考え方、その意義や役割、相互の関連などを理解し、知識を身につけている。
評価方法	①授業中の観察 ②忘れ物 ③発言 ④提出物	①授業中の観察 ②発言・発表 ③ワークシート	①授業中の観察 ②ワークシート ③定期テスト

評価と評定の関連

※評定（5段階）は、各観点の評価（A<sup>マル</sup>O=5点、A=4点、B=3点、C<sup>マル</sup>O=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O	15点	A <sup>マル</sup> O A <sup>マル</sup> O A	14点			5
A <sup>マル</sup> O A A	13点	A A A	12点	A <sup>マル</sup> O B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B C <sup>マル</sup> O	8点	3
B C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O	7点	C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O	6点	C <sup>マル</sup> O C <sup>マル</sup> O C	5点	2
C <sup>マル</sup> O C C	4点	C C C	3点			1

学習内容と評価のめあて

月	学習内容	指導のめあて
4 5	歴史 第6章 二度の世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦前後の国際情勢を背景に、日本の国際的地位の変化や大正時代の政党政治の発達、民主主義思想の普及、社会運動の動きを通して日本国民の政治的自覚が高まったことを理解させる。</li> <li>・昭和初期から第二次世界大戦終結までの日本の政治・経済・外交の動きなどを、東アジア諸国との関係や欧米諸国の動きに着目させながら、経済の混乱、軍部の台頭、戦争の経緯と大戦の惨禍を理解させる。</li> <li>・戦時下の国民生活をなるべく身近に感じさせるとともに、戦争の惨禍にも目を向けさせ、関心や態度を養う。</li> </ul>
6	第7章 現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次世界大戦後の、日本の民主化と再建、国際社会への復帰について、世界の動きと関連させながら理解させる。</li> <li>・高度経済成長以降から現在までの日本と世界の動きの概要を、国民の生活と関連させて理解させる。</li> <li>・国際社会における日本の役割や、地域社会における個人の取り組みなどに関心を持たせるとともに、将来の社会に期待をいだかせ、社会の一員としての自覚を深めさせる。</li> </ul>
6	歴史学習のまとめ・評価の時間 身近な地域の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦終結から現在までの日本の歩みを理解させ、将来の日本と世界について考えさせる。</li> <li>・各家庭における冷戦終結から現在までの出来事と、日本や世界の歴史を比較しながら考えさせる。</li> </ul>
7	公民 第1章 現代社会と私たち ① 現代社会と私たちの生活 ② 私たちの生活と文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが生きる現代社会を概観させることで、公民的分野への関心を高めさせ、これ以降の公民学習につなげる。</li> <li>・地理的分野、歴史的分野との関連を図るとともに、現代社会の特色をさまざまな条件や要因から捉えさせるなど、多面的・多角的に考えさせる。</li> <li>・さまざまな資料から、現代社会の特色や、現代社会における文化の意義や影響について読み取らせ、適切に表現させる。</li> <li>・現代社会の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化が見られ、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていること、また、現代社会における文化の意義や影響について理解させる。</li> <li>・現代社会を捉える見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方があることを、具体的な社会生活と関連づけて理解させる。</li> </ul>
	③ 現代社会の見方や考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間は家族や地域社会などの社会集団に所属して生活する社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方や決まりの意義に関心を持たせ、具体的に考えさせ</li> </ul>

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な事例を通して、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方が、現代社会を捉える見方や考え方の基礎となっていることを理解させる。</li> <li>・決まりの重要性や決まりを守ることの意義、個人の果たすべき責任について、社会の形成者としての立場から理解させる。</li> </ul>
8	<p>第2章 個人の尊重と日本国憲法</p> <p>① 人権と日本国憲法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の尊重の考え方や法の意義について、基本的人権や日本国憲法の役割を中心に、具体的な活動を通して意欲的に追究させる。</li> <li>・現代社会のさまざまな人権上の課題の解決や、共生社会を実現するための取り組みに、社会の形成者として積極的に関わろうとする態度を育てる。</li> <li>・立憲主義の意義や公共の福祉による人権の制限などについて、具体的な事例を通して多面的・多角的に考察させ、その過程や結果を適切に表現させる。</li> <li>・日本国憲法の条文をはじめとするさまざまな資料に親しませるとともに、個人の尊重に関する資料を適切に収集・選択させ、的確に読み取らせる。</li> <li>・日本国憲法の基本原理（国民主権、平和主義、基本的人権の尊重）について、具体的な生活との関わりを通して理解させるとともに、自由・権利と責任・義務の関係が社会生活の基本となっていることに気づかせる。</li> </ul>
9	<p>② 人権と共生社会</p> <p>③ これからの人権保障</p> <p>第3章 現代の民主政治と社会</p> <p>① 現代の民主政治</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化とともに人権の考え方が変化することについて、具体的な事例を通して気づかせるとともに、社会の変化に伴って生じた人権上の新しい課題にはどのようなものがあり、それらの解決がなぜ重要なのかを理解させる。</li> <li>・インターネットと人権との関係や人権保障の国際的な広がりなどについて、統計資料や新聞記事などを適切に選択させ、現状と課題を読み取らせるとともに、その解決策について多面的・多角的に考えさせる。</li> <li>・ディベートなどの学習活動を通して、個人の尊重と法の意義への関心を高めさせるとともに、社会の形成者として、人権を守り育て、民主的な社会を創り上げようとする態度を育てる。</li> </ul>

10	<p>第3章 現代の民主政治と社会</p> <p>②国の政治の仕組み</p> <p>③地方自治と私たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民主主義で物事を決める際に必要とされることや、私たちに求められていることについて考察し、適切に表現させる。</li> <li>・住民の声を生かした政治を実現するために、どのような取り組みがなされるべきか考察する。</li> <li>・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わる意識を養う。</li> </ul>
11	<p>第4章 私たちの暮らしと経済</p> <p>①消費生活と市場経済</p> <p>②生産と労働</p> <p>③市場経済の仕組みと金融</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査や討論、シミュレーションなどの多様な活動を通して、経済に対して関心を持たせるとともに、経済に関する諸課題について、自ら考えようとする態度を育てる。</li> <li>・統計資料や模式図、新聞記事などのさまざまな資料を収集・選択させたり、読み取らせたり、その結果を分かりやすくまとめて表現させたりすることを通して、経済的事象を捉える見方や考え方の基礎を養う。</li> <li>・経済活動が、人間生活の維持・向上のために欠かすことのできないものであることを、身近な消費生活を通して理解させる。</li> <li>・無限で多様な人々の欲求に対して、社会の資源は有限であり、その資源からどの財やサービスを生産するか価格を考慮して選択するという、市場経済の基本的な考え方を理解させ、現代の生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任について考えさせる。</li> </ul>
12	<p>第4章 私たちの暮らしと経済</p> <p>④財政と国民の福祉</p> <p>⑤これからの経済と社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましを理解したうえで、これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察させる。</li> <li>・国民の生活と福祉の向上を図るために、市場の働きに委ねることが難しい諸課題の解決において、政府が果たしている経済的な役割に気づかせるとともに、財源の確保と配分という観点から財政の在り方について考えさせる。</li> </ul>

1	<p>第5章 地球社会と私たち</p> <p>①国際社会の仕組み</p> <p>②様々な国際問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会の現状や諸課題について関心を持たせ、日本の果たすべき役割について考えさせるとともに、世界平和の実現と人類の福祉の増大に向けての熱意と協力しようとする態度を育てる。</li> <li>・国際社会の現状や諸課題について、さまざまな資料を基に分析させ、公正に判断させ、適切に表現させる。</li> <li>・国際社会の現状や諸課題、国際機関の活動に関するさまざまな資料を収集・選択させ、的確に読み取らせる。</li> <li>・国際社会における国家や国際機構、NGO の役割や、それらが国際社会の諸課題を解決するために行っている取り組みについて理解させる。</li> </ul>
2	<p>③これからの地球社会と日本</p> <p>終章 より良い社会を目指して</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることに気づかせる。</li> <li>・地理的分野，歴史的な分野，公民的分野の3年間の社会科学習を振り返り，持続可能な社会の形成者として解決すべき課題の考察に，章の学習の見通しを持って取り組ませる。</li> </ul>